



2022 年度 活動報告書

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター

Activity Report 2022
Jichi Medical University
Center for Physician and Researcher
Career Support

Contents

[illegible]

はじめに

医師・研究者キャリア支援センター長 挨拶
小宮根真弓 皮膚科学教授



医師・研究者キャリア支援センターは、2007 年に、女性医師支援センターとしてスタートしました。2012 年度からは、支援の対象を女性医師のみならず男女の医師・研究者、さらに職員全体に拡大し、現在の医師・研究者キャリア支援センターとして活動しています。

2016 年度より、当センターの活動を報告書にまとめております。当初は非常に簡素な報告書でしたが、センター構成員の協力のもと、だんだん立派なものができるようになってまいりました。2022 年度も、自治医大の職員全員が、より快適に仕事を続けていくことができるように、職場の環境改善、職員のモチベーションアップ、働き方の改善を目指しています。

2022 年度は、当センターが医師・研究者キャリア支援センターとして再発足以来 10 周年にあたり（女性医師研究者支援センターから起算して 15 周年）、10 周年記念シンポジウムを開催しました。これまでの活動を総括し今後の課題を見据える貴重な機会となりました。さらに、副センター長の高橋将文先生（解剖学）の尽力により美しく装丁された 10 周年活動報告書を作成することができました。

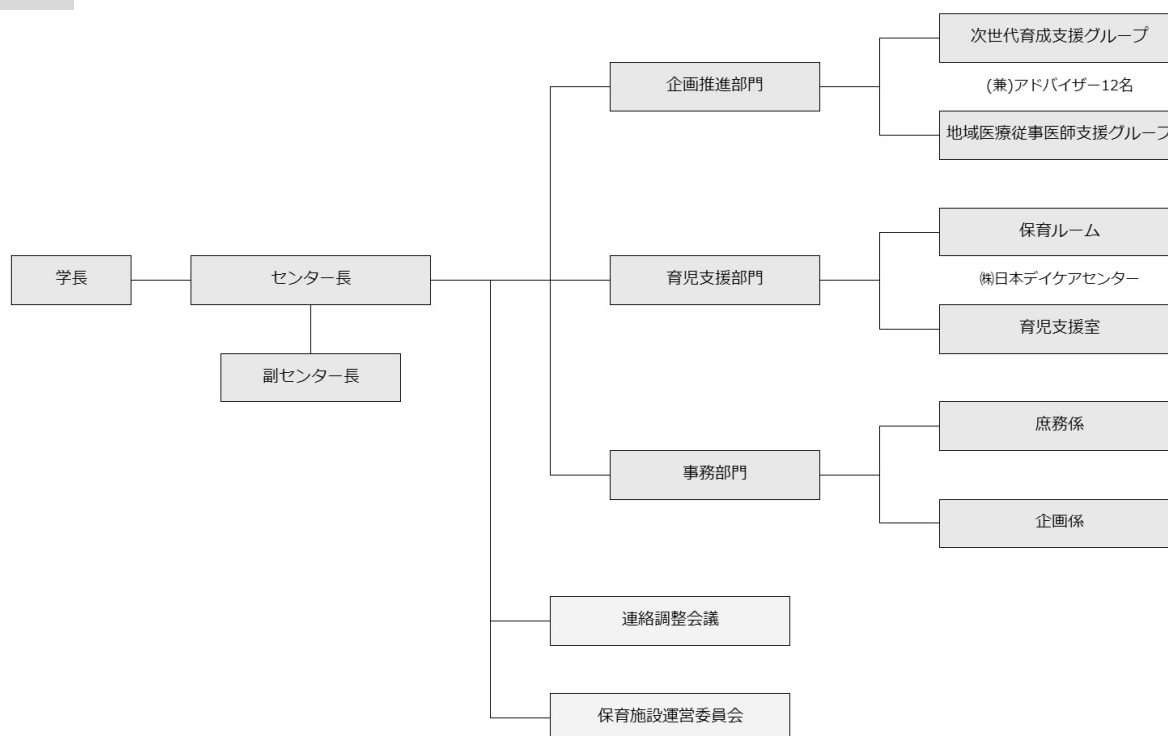
Jichi Joy Café(JJC)は 2016 年度より、副センター長の石川由紀子先生（総合診療内科）が中心になって始めた活動です。2022 年度は「男性の育児休暇について」をテーマに、キャリアの継続と家庭の両立について情報交換し、働きやすい職場づくりを考えるための交流会を開催しました。男性が育児休暇をとること自体がまだまれな事柄ですが、今後男性・女性の区別なく育児に関与できるような環境づくりに尽力したいと考えています。

また、職員を対象として、キャリア形成支援におけるニーズ調査を施行しました。この中で、当センターの存在の認知度の低さが明らかになり、学内・院内での広報の不足を思い知らされました。今後は内外に向けての活動を皆様により認知していただける形で行っていきたいと考えています。

保育ルーム「あいりす」では、一時保育、病児保育、夜間保育等、これまで通り継続して行っています。2022 年度も多くの利用者がありました。開園時間や利用料金など、今後改善すべき点が多数ありますが、今後もより充実した支援体制・活動を目指してまいります。当センターを最大限に活用していただければ幸いです。

医師・研究者キャリア支援センターの体制

組織図



スタッフ紹介

小宮根 真 弓 (センター長)
 高 橋 将 文 (副センター長)
 石 川 由紀子 (副センター長)
 山 形 崇 倫 (アドバイザー)
 藤 原 寛 行 (アドバイザー)
 小 川 真 規 (アドバイザー)
 柳 沢 佳 子 (アドバイザー)
 黒 須 洋 (アドバイザー)
 山 邊 昭 則 (アドバイザー)
 薄 井 里 英 (アドバイザー)
 笹 原 鉄 平 (アドバイザー)
 小 形 幸 代 (アドバイザー)
 上 田 真 寿 (アドバイザー)
 佐 藤 篤 子 (アドバイザー)
 加 藤 梨 佳 (アドバイザー)
 中 村 幸 恵 (あいりす園医)
 加 藤 貴美子 (あいりす園長)
 石 井 容 子 (協力教員)
 渡 邊 賢 治 (協力教員)

医学部・教授
 医学部・准教授
 地域医療学センター・講師
 医学部・教授
 医学部・教授
 保健センター・教授
 附属病院・教授
 分子病態治療研究センター・准教授
 医学部・准教授
 医学部・准教授
 医学部・准教授
 医学部・講師
 附属病院・講師
 医学部・講師
 医学部・助教
 医学部・講師
 附属病院・看護副部長
 看護学部・講師
 看護学部・講師

2022 年度活動状況

次世代育成支援

開設 10 周年記念シンポジウム

女性医師支援センターから始まった本学でのキャリア支援のこれまでを振り返り、これから 10 年のキャリア支援を推進するきっかけとするため、自治医科大学医師・研究者キャリア支援センター開設 10 周年記念シンポジウム「これから 10 年の自治医大キャリア支援に向けてー持続可能なキャリア支援を目指してー」を開催した。

日 時：2022 年 11 月 26 日（土）13:00～15:00

場 所：医学部教育研究棟 1 階 講堂

基調講演：中西 友子 氏（東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授）

タイトル「植物の謎に魅せられてー私の歩んできた道ー」

講演 1：永井 良三 学長

タイトル「持続可能で多様な社会におけるキャリア形成」

講演 2：小宮根 真弓 医師・研究者キャリア支援センター長

タイトル「医師・研究者キャリア支援センターの歩みと今後の課題」

講演 3：園田 正樹 氏（コネクテッド・インダストリーズ株式会社 代表）

タイトル「医師・研究者のキャリアを支える病児保育」



本記念シンポジウムでは、石川由紀子副センター長の司会進行のもと、川合謙介附属病院長の開会挨拶に続き、中西友子先生（東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授、星薬科大学前学長）の基調講演、小宮根真弓センター長、園田正樹先生（コネクテッド・インダストリーズ(株)代表、東京大学医学部産婦人科学）、永井良三学長の講演があった。

研究者のキャリアにおける様々な経験、本学キャリア支援センターのこれまでの支援内容と今後の展望、それぞれの時代の中でのキャリアの磨き方、さらに医師の働き方改革に伴う病児保育の重要性など、今後の自治医大での持続可能なキャリア支援を構築していく上で極めて重要な内容が紹介された。

最後に、大槻マミ太郎副学長の挨拶により本シンポジウムは閉会した。

基調講演

「植物の謎に魅せられてー私の歩んできた道ー」 中西 友子 氏

中西先生のご講演前半では、学位取得後放射化学から生物学の道へ 180 度転換された経緯が紹介された。社会の男女不均等を感じる中、企業でのバイオ部門の設置にともない動物細胞や植物細胞の培養を手がけ、技術取得のために様々な方との出会いがあったこと、さらにグループの人数が

増えるに従って人材育成や安全教育にも従事し、自身のキャリアを積んできたことが述べられた。ご講演後半では、大学に移動後に始めた植物における水と養分元素の放射線イメージング研究の詳細と、その美しいデータが紹介された。

最後には福島放射能汚染の調査結果をまとめた著書が紹介され、調査活動における放射線植物生理学の関心の高さに言及された。



中西 友子 Tomoko Nakanishi

Profile

東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授。理学博士。日本ゼオン(株)などを経て1987年東京大学農学部助手。同助教授を経て2001年同教授。東京大学総長補佐、2016年東京大学名誉教授。星薬科大学学長を経て星薬科大学名誉教授。猿橋賞、ヘベシー賞、日本放射化学会賞、原子力学会貢献賞、フランス国家功労勲章(シュバリエ)などを受章。近年の著書に『土壌汚染』(2013)・『フクシマ土壌汚染の10年』(2021)がある。

講演

「持続可能で多様な社会におけるキャリア形成」 永井 良三 学長



永井学長の講演では、「持続可能」への考えが述べられた。社会において持続可能性が大きな問題になっているが、現状では様々な不安を感じている。大学人として大事なのはどのような考え方や気持ちを持ちながら仕事をしていくのかであり、不安をいかに総合的に持っていくかによって、結果としてそれがキャリア形成につながるのではないかという視点が紹介された。

何を不安に思うかは人や時代によって異なり、起こった出来事をどう受け止めるかが、個人のキャリアの作り方に反映されるのではないだろうか。

講演

「医師・研究者キャリア支援センターの歩みと今後の課題」

小宮根 真弓 医師・研究者キャリア支援センター長



小宮根センター長の講演前半では、当センターのあゆみ、柱となる4つの支援内容、さらに最近の学内教職員の内訳や10年間での動向が詳しく紹介された。講演後半では、今年度実施したキャリア支援ニーズ調査の結果をもとに、育児支援のニーズの実態が紹介された。最後に現在大学がかかえる課題や問題点を整理した上で、今後10年のキャリアセンターの役割、使命、および支援体制をより充実させるためのプラン、そして組織を発展させるための多様性と持続可能性の重要性が述べられた。

講演

「医師・研究者のキャリアを支える病児保育」

園田 正樹 氏（コネクテッド・インダストリーズ株式会社代表）

園田先生のご講演では、自らの産婦人科医としてのご経験をもとに、病児保育を中心に医師がどのようにキャリアを考えていけるのかという視点が紹介された。ご講演前半では大学病院勤務医師の88%が過労死ラインの2倍の時間外労働をしている現状や、間近に迫る2024年の医師働き方改革で大きく変化する就業形態や勤務時間の詳細が述べられた。

特に、就業時間の短縮に必ず必要なのは男女問わず、短時間勤務医師の活躍であることが強調された。

ご講演後半では病児保育の種類やニーズを踏まえて、利用を簡略化するためのデジタル化や、少子高齢化の背景とは逆に病児保育のニーズが多い現状が紹介された。



園田 正樹 Masaki Sonoda

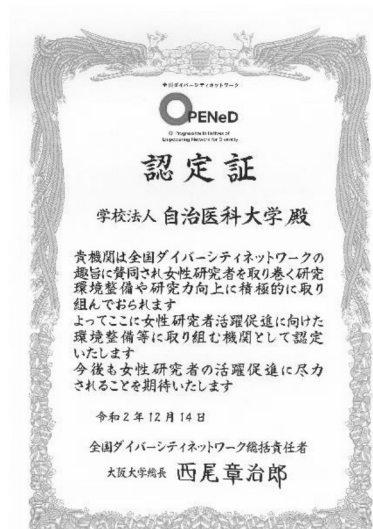
Profile

新潟県糸魚川市出身。佐賀大学医学部卒。自治医大で初期研修（2008年～2010年）。医師15年目の産婦人科医（東京大学医学部産婦人科学教室）。安心して産み育てられる社会を実現したいと考え、2017年にConnected Industries株式会社を創業。2020年4月、病児保育支援システム「あずかるこちゃん」をリリース。事業以外にも、病児保育の調査研究や政策提言に取り組む。成育医療等協議会委員に選出され、こども家庭庁の根拠法となる成育基本法の基本方針を議論する。全国病児保育協議会調査研究委員会／病児保育広域利用プロジェクト委員会委員など歴任。

10 周年記念誌の発行

センター開設 10 周年を記念して、これまでの活動、学内の各種統計データ等をまとめた冊子を発行した。

全国ダイバーシティネットワークへの参画



2020 年 12 月より、女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取り組む機関をつなぐ「全国ダイバーシティネットワーク」関東甲信越ブロックに参画することとした。2022 年度は下記の会議にオンラインで参加し、ブロック間での共催セミナー開催や各大学からの現状報告を行なった。

- ・ 2022.07.25・・・今後の運営体制等について意見交換他
- ・ 2023.02.09・・・次年度事業計画案他

また、毎月 1 回学内の教職員に向けて、ダイバーシティに関する新着情報のメール配信を行っている。

就業継続・復職支援

育児短時間勤務制度

子育て中の医師(男女を問わず)に対し、就業と育児を両立させる具体的な支援制度として、勤務条件の柔軟な運用を目的に週 20 時間の短時間勤務制度を導入している。また、自治医科大学では国が定める週 30 時間の育児短時間勤務制度を子が小学校に入学するまで(所属長が認めた場合は小学校 3 年生まで)取得できるよう拡大している。

アドバイザーによる勤務継続のための相談、カウンセリング、コーディネート

- ・ 就業支援・復職支援等に関する相談件数：2 件

マタニティ白衣のレンタル

女性医師を対象に、妊娠中に使用するウエストが調節可能なコートタイプのマタニティ白衣のレンタル(無料)を行った。また、2013 年度から半袖タイプのマタニティ白衣を導入、2015 年度から長袖 L を増やし、ニーズに応えられるようにした。

- ・ 2022 年度利用者：1 名

Jichi Joy Café

医師、研究者、学生等を対象に、キャリアの継続と家庭の両立について情報交換し、働きやすい職場作りについて考える交流会として実施している。

2022 年度は「アフターコロナを見据えた働き方、職場づくり」をテーマに、オンラインで 2 回開催した。

第 15 回 Jichi Joy Café の開催

日 時：2022 年 7 月 22 日（金）12:00～13:30

場 所：Zoom リモート形式

医師・研究者キャリア支援センター

第15回 Jichi Joy Cafe

年度テーマ：アフターコロナを見据えた働き方、
職場づくり

7月22日(金) 12:00～13:00
(途中参加退出自由)

今回のテーマ

育児とキャリアの継続

開催方法：ZOOM (事前登録制)

対 象 者：教職員(非常勤、
育児休暇中の方も大歓迎です)

内 容：・講話
「若手～中堅の医師のキャリア形成について」
産婦人科 篠原 美樹 先生
・参加者自己紹介、コメント&フリーディスカ
ッション

※お申し込みは7/20(木)までに下記URLまたはQRコードから登録フォーム
にて事前登録をお願いいたします。

URL:<https://forms.gle/qAeEUq3QjTa9yxrN9>

医師・研究者キャリア支援センター事務局(担当：関口・渡邊)

Tel:0285-58-7561 内線2448



第 15 回の JJC では「育児とキャリアの継続」をテーマとして、産婦人科医師の篠原美樹先生に「若手～中堅のキャリア形成について」お話しして頂きました。

篠原美樹先生は、自治医科大学附属病院で初期研修後、産婦人科へ入局され、2022 年で医師 10 年目です。産婦人科入局後に出産され、1 年間の育児休暇の後に職場復帰し、現在は 30 時間育児短時間勤務制度を取得し勤務されています。

育児と仕事の両立をしながら、産婦人科専門医も取得され目標をもって日々過ごされていると感じました。

また、産婦人科医局で取り組まれている働き方の改善についてご紹介頂き、他の診療科にも参考となる点が多かったと思います。

今回の参加者は臨床の先生方が多く、特に男性医師の参加がこれまでで最も多い回となりました。後半のディスカッションでは働き方の多様性について男性からの意見も聞くことができ、大変有意義な時間となりました。

参加者のご感想には以下のようなものがあった。

Q.講話の中で参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・サポートがあることの重要性、逆にいうと家族の支援が得られない環境は大変だろうと思いました。
- ・20 時間勤務だと手術に入れないが、30 時間勤務だと入れること。時間外業務は交代医師が確保されている環境。さまざまなサポート環境を整えている医局に魅力があるから医局員 62 名というマンパワーがあると思いました。
- ・子育て中のキャリア形成について医局全体の課題として取り組んでいる点が画期的だと思います。私のいる埼玉県の地域の病院では、時短や育休をとった分だけ他の医師に皺寄せがいく仕組みになっており、今年度は医師数の多い深谷赤十字病院に派遣してもらって、子どもが熱を出した時には他の医師に診療を依頼できる環境にいます。今後秩父地域の派遣先に戻って派遣医師の中では後輩を指導する立場になった時、時短や育休を必要とする人がいればサポートしたいと思いますが、子育て中の医師がキャリアを両立するためには、医師の絶対数を増やす必要があります、なかなか難しいと思いました。
- ・産婦人科の医局では、個人の目標を少なくとも医局長とは共有していることに驚きました。いわゆる「ワンオペ」という状況だと思いますが、大変な中でも専門医の取得やその後の目標を定めておられ、感銘を受けました。
- ・それぞれの診療科において同じ悩みを抱えていることがよくわかりました。
- ・産婦人科の時短勤務対応について。
- ・自分のキャリアの目標をもつということがまず前提にもつことの大切さが印象に残りました。育児中、あるいはこれから育児をするかもしれない若手医師に是非聞かせたいと思いました。

Q.フリーディスカッションで参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

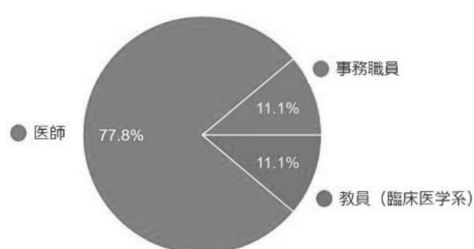
- ・診療科によってサポート体制が異なる状況が相互に知られていない、情報の非共有状態。
- ・若手の女医さんが出産や子育てをしながら専門医取得やキャリア形成を頑張ってらっしゃる姿に感服しました。それ以外にも先生方の振り返る話もとても興味深く、いろいろな働き方があるのは組織として必要なんじゃないかと思いました。
- ・子育て中の医師がどのように妊娠、出産、育児、仕事をされてきたのかという話を聞くことができ良かったです。
- ・他の部署で、育児世代の方々の勤務形態の希望がさまざまであることが分かった。他の部署で医局の方がそれぞれのキャリアの目標および勤務形態の希望などのヒアリングを行って調整されていることはとても素晴らしい取り組みだと思いました。

Q.篠原美樹先生へのメッセージがございましたらお書きください。

- ・ 今のご苦労があとで生きてくると思います。頑張ってください。
- ・ わかりやすい内容と綺麗なスライドで、素晴らしい講演でした。ありがとうございました。
- ・ 子育てをしながら専門医を取得され、第一線で働き続けられていて、敬服致します。子育ては予定通りにいかない事が多く、仕事との両立を挫折しかける事もありますが、目標を立てて実行されている先輩方のお話は、非常に励みになります。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 本日はありがとうございました。子育てをしながら第一線にいることはとても大変だと思います。今後の御活躍を祈念申し上げます。
- ・ 忙しい中発表を快く受けていただきありがとうございました。
- ・ 経験者のお話ほど当事者にとって参考になるものはないと思います。これからも経験者として様々な形で発信して行ってほしいと思います。ありがとうございました。
- ・ きちんと中断せずキャリアを積まれていて素晴らしいです。
- ・ 大変悩んだ時期もありながら、その結果自分の目標をもって、育児や家事に関してもサービスを使いながら、両立されている姿は後輩医師の励みになると思います。ご講演ありがとうございました。

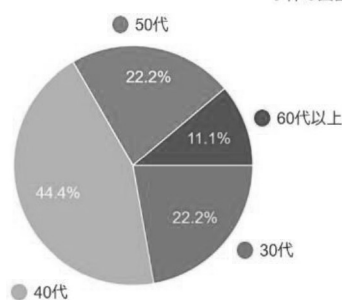
「第 15 回 Jichi Joy Café」アンケート結果

職種
9 件の回答



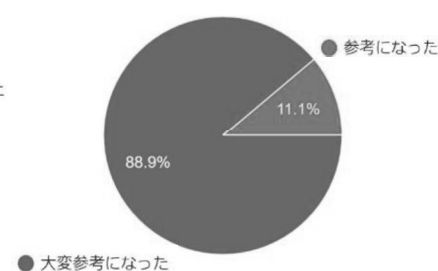
● 教員（基礎医学系）
 ● 教員（臨床医学系）
 ● 教員（看護学系）
 ● 医師
 ● 看護師
 ● 技師
 ● 事務職員
 ● その他

年齢
9 件の回答



● 20代
 ● 30代
 ● 40代
 ● 50代
 ● 60代以上

イベントの内容について
9 件の回答



● 大変参考になった
 ● 参考になった
 ● どちらでもない
 ● どちらかという参考にならなかった
 ● 参考にならなかった

第16回 Jichi Joy Café の開催

日 時：2023 年 2 月 27 日（月）12:30～13:30

場 所：Zoom リモート形式



テーマは「男性の育児休暇について」。

2022 年 10 月 1 日より育児・介護休業法の法改正に「産後パパ育休」が新設されました。この新しい育休を当院で初めて取得された感染症科の鈴木貴之先生にその経験を発表して頂きました。育休を取得しようと思った動機や取得する際の職場の理解など悩んだ点や良かったことについてお話し頂きました。産後パパ育休はこれまでの育児休暇と異なり、短期間に仕事をしながら育児にも参加できるというメリットがあります。これは、職場にも家族にも理解を得やすい働き方で、これからは取得希望者が増えるのではないかと考えられています。今回の Jichi Joy Café でも男子医学部生や男性医師・職員の方の参加が多かったことは、男性の育児休暇に関心が高まっている表れであると感じました。これまでの Jichi Joy Café では、育児と仕事の両立やキャリアアップについて女性からの

目線で話題を提供してきましたが、これからは、性別にとらわれず各個人に合わせた働き方の情報を発信していきたいと考えています。

Q.講話の中で参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・ 男性育休取得例。
- ・ 育休中に出勤できるようにすることで育休が取りやすくなるというのは考えたことが無かったが確かに良い落としどころだとも思いました。（私がポスドクで育休を取ったときはその辺は出勤記録に無い出勤とかで処理していた。）
- ・ 育児に参加することを妻が喜んでくれた、自分の子供が可愛くて一緒にいられて嬉しかった、といった率直なお気持ちを伺えて、とても新鮮でした。定年後の「ぬれ落ち葉」や「熟年離婚」といったこれまでの「家庭に居場所がない夫・父親像」を一新する、まさにフレッシュな驚きで、もっと声を上げていただけるように応援したいと思いました。熟年世代男性も家庭・家族と一緒に築くことを継続できていれば、寂しい現実はなかっただろうに、とも思いました。
- ・ 実際に体験されたことの振り返り。

- ・産後パパ育休は就業が認められていることが印象に残りました。
- ・育休中の働き方。
- ・育児休暇を分割してとれる、半分以上の勤務時間、勤務日数ということでポイントを教えて頂き取得へのハードルが下がりました。男性が育児休暇を取らない文化を崩すことは重要ですが、女性が育児を一人で背負う文化を崩したいと考えました。
- ・育休中の働き方。
- ・制度の情報を入手しておくこと、周りの先生との普段から連携をとっておくこと、仕事環境を整えること…。不可能ではない！前例がある！ということが知れただけでもとても良かったです。
- ・男性育休の取得法。
- ・実際に育休を取られたときの経験談。
- ・今回のパパ育休制度の良さは、働きながら育休が取得できることにありと感じています。ただ、その際の詳しいルール(生後何週までに取得する必要があるとか、週の就業時間や日数等)を理解するのが難しいなあと感じました。本学の事務職員の方が、いろいろサポートしてくれたというお話だったので、そうした育休コンサルタントのような事務職員の方の存在が、もっと広まると良いなあと思いました。
- ・どのように仕事を調整しながら、育児休暇を取得したかのプロセス。
- ・以前、父親がパパ育休を取ることでその後の育児への参加や母親への協力が図れるということを聞いたことがあります。鈴木先生の話から同じことを感じることができました。
- ・育休取得にあたり、内部での業務調整などがスムーズであった点。
- ・産後パパ育休という新しい制度を始めてしまった。具体的な内容が知れてよかった。

Q.フリーディスカッションで参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・ディスカッションのコメントを聞いて、日本の特に病院で育休を取るのは、かつては困難で、今でもなかなか難しいのだなあと思いました。ポストクだと休むことで被害が出るのは本人とPIですが、医師や教員だと影響が出る範囲が広く、企業のように代わりがいるわけでもないので大変ですね。
- ・家事・育児に参加することで良好な家族関係を築きたいと思っておられる男性医師はおそらくそれなりの人数でおられる一方で、現状で育児休業の取得はハードルが高いと感じられているらしい現実的な感想を直接伺えて大変参考になりました。
- ・実際に体験されたことを踏まえた改善点。
- ・職場の理解や働き方の多様性を認める環境が必要だと思いました。
- ・制度についての啓発、勉強会などの取り組みがもとめられていること。
- ・皆さまそれぞれの悩み、お考えが聞けて、今後もより良くなっていくことが想像できたことが嬉しかったです。

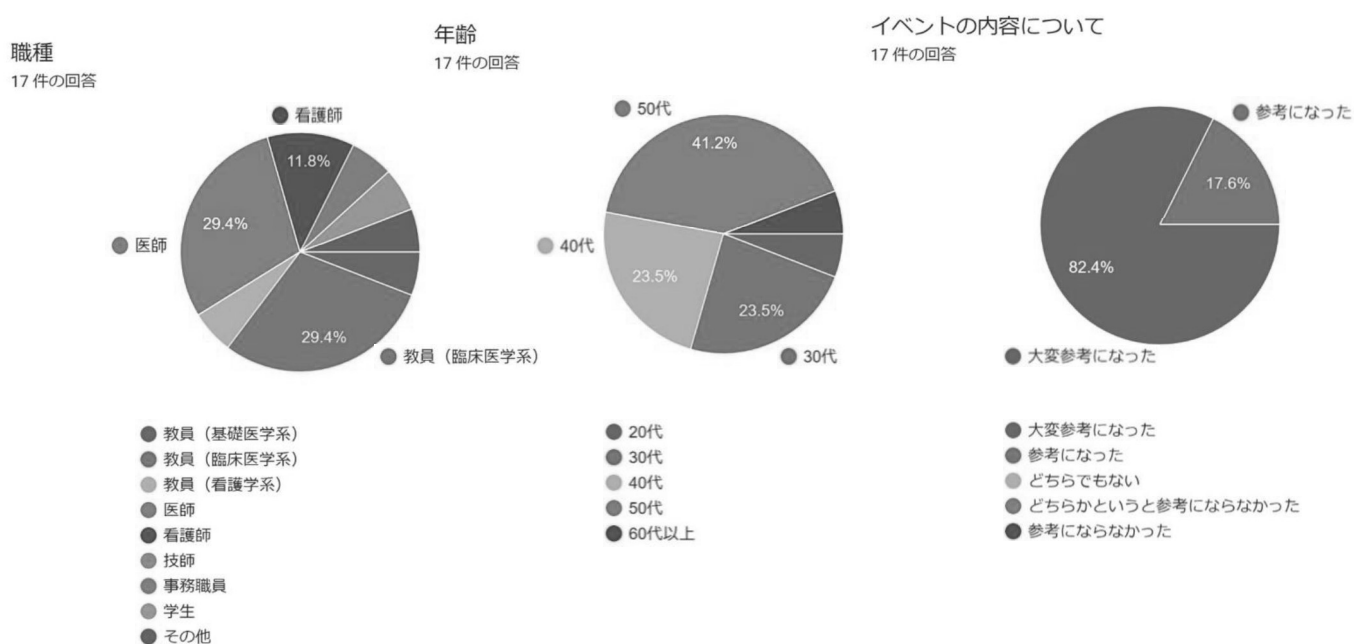
- ・男性職員の方がとらうとしてきてハードルになったことなどの意見が出され、現状それぞれが悩みながらも両立されていることを知ることが出来ました。男子学生さんも具体的なイメージを持てたとお話しされていて、将来こういった制度が使う人が増えるという期待がもてて嬉しかったです。管理職の意識改革が必要であることや、実際の取得についての講習会をすればなどとても具体的な案もきかれ有意義な意見交換でした。
- ・男性の育休制度の取得について、部署ごとに理解してもらうことが必要である。
- ・制度周知のための説明会があると良いとの意見。
- ・学生などの若い方の参加があった一方、診療科長などの職場環境を管理する立場の方が参加されていなかったのが気になりました。
- ・育児休暇中に家事（食事の準備）を負担してくれるだけでも、育児中の妻にとっては助かるというお話に、その通りだと思いました。うっかりすると、男性が育児休暇を取ろうと考えたとき、イメージしているのは子どもの世話（育児）だけなのではないかと思います。しかし、実際のところ、育児休暇中にやらなければいけないことは、育児+家事全般(つまり、夫婦二人分の食事の準備等々)の負担です。育児だけでも手いっぱいの妻にとって、夫婦二人が同時に育児休暇を取れることで、育児中の負担感が激減するということを、社会がもっと理解してもらえたらと思いました。
- ・女性参加者からの意見ではおおむね歓迎の声が多かった。男性参加者からは育休取得に対する問題や困難さの指摘があった印象がある。

Q.鈴木貴之先生へのメッセージがございましたらお書きください。

- ・迅速な手続きに感服しました。
- ・職場で前例がない状態で育休を取るのはなかなかやりづらかったのではないかと思います。前例を作っていただきありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。本当にありがとうございました。
- ・男性の育休取得を促進するための具体的な対策のヒントを得ることができ、ありがとうございます。
- ・とても新しい働き方のお話をありがとうございました。皆で協力し合ってより良い働き方ができるような環境にしていきたいと思いました。
- ・先生の今回の体験について気づきを言語化して頂いたことが、大変これから育児休暇を取得を考えている方の参考になったと思います。とても分かりやすいプレゼンテーションをありがとうございました。出産されてからこの制度を使われたということですが、男性は育児休暇をとらないという先入観を捨ててチャレンジされたその行動力が素晴らしいと思います。
- ・ありがとうございました。これからも頑張ってください。

- ・前例を作ってくださいありがとうございます。今後は各診療科の先生ごとのモデルケースを作っていく過程になるかと思います。自分もそのモデルケースの一つになれるよう頑張ります。
- ・パパの育児参加に関して、とても素敵な印象を受けました。今後ともご家族を大切に、今の時間を過ごしてください。
- ・男性育休のパイオニアとして大きな役割を果たされたと思います！核家族化の中で、皆で家事育児に参加する意識が当たり前になると、円滑に進むことが多くなりそうです。プレゼン構成やお話のされ方がとても素晴らしく勉強になりました！
- ・先生の人柄が素敵です。仕事にも家庭にも一番良い選択をされようとしていて素晴らしいなと思いました。
- ・制度を知ってから勤務体制をシミュレーションし、職場の方々に理解してもらい、必要な書類を整えるまでの大変さは、計り知れないものがあつたのではないかと思います。その労力だけでも奥様への愛を感じました。
- ・周囲があまり活用していない中でパパ育を取ることは気持ち的な部分も含めて大変だっただろうと思いますが、先生がされたことやそれを伝えていくことは、日本の父親や医師の育児への参加やパパ育を促す働きかけになると思います。個人的には、この経験が今後の育児へのかかわりにどう影響するののかも興味がありぜひ聞きたいと思いました。
- ・貴重なご講演をありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・是非、2 回目の産後パパ育休も取得して頂き、新たな体験談を聞かせて頂きたい。

「第 16 回 Jichi Joy Café」アンケート結果



育児支援

育児支援(満3カ月～12歳)については、医師、研究者に限らず全教職員を対象とし、一時託児、病児保育、夜間保育を実施した。保育ルームは自治医科大学2号館2階にあり、担当要員として保育サポーターをマンツーマンで付けるほか、看護師3名、保育士3名を配置している。

保育サポート会員は、会員になるための研修を終了した方で、保育ルーム「あいりす」の利用者に対して、保育士・看護師と連携して保育のサポートを行っている有償ボランティアである。全国的に保育士の人手不足が深刻化している中、地域の保育サポート会員の支えが大変大きな力となっている。

なお、この業務は(株)日本デイケアセンターに委託している。保育関連の行事として、例年、BLS(救急蘇生法)研修会、育児支援講演会、保育サポート会員懇親会、夏祭り、クリスマス会を実施しているが、2022年度は新型コロナの影響で休止することとした。

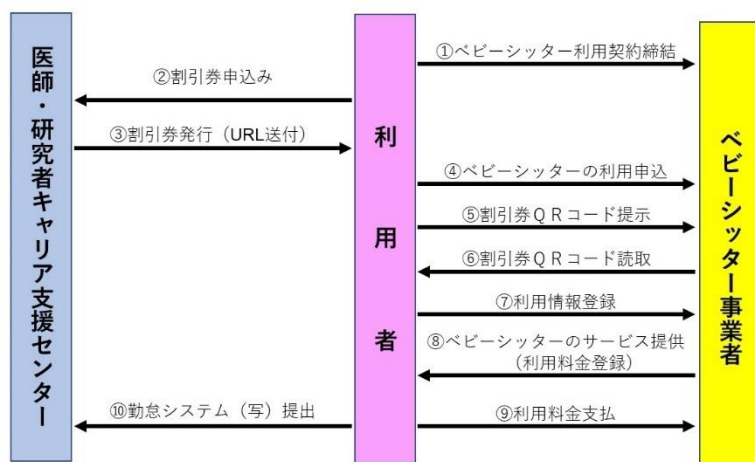
保育活動件数(人)

	一時託児	病児保育	夜間保育	合計
2022年度	150	281	24	455

2022年度職種別利用項目別件数及び利用ウエイト

職種区分	利用項目	件数	ウエイト	全体ウエイト
医師・研究者	一時託児	79	32.6%	53.2%
	病児保育	160	66.1%	
	夜間保育	3	1.2%	
	合計	242	100.0%	
看護師・助産師職	一時託児	64	35.0%	40.2%
	病児保育	98	53.6%	
	夜間保育	21	11.5%	
	合計	183	100.0%	
その他職員	一時託児	7	23.3%	6.6%
	病児保育	23	76.7%	
	夜間保育	0	0.0%	
	合計	30	100.0%	
合計	一時託児	150	33.0%	100.0%
	病児保育	281	61.8%	
	夜間保育	24	5.3%	
	合計	455	100.0%	

ベビーシッター派遣事業割引券の発行



2022 年度より教職員の育児と就労の両立を支援するため、『ベビーシッター派遣事業割引券』の発行を開始した。本制度は、内閣府の委託を受けた公益社団法人全国保育サービス協会が行っている「ベビーシッター派遣事業」を利用して実施。

この割引券を利用してベビーシッターサービスを利用すると、1 日の利用料金から対象児童 1 人につき最大 4,400 円 (2,200 円×2 枚) の割引が受けられる。

地域医療従事医師支援

卒後ワークライフバランスについて考える会

(自治医科大学 地域医療推進課女性医師支援主催)

[医学部]「卒後ワークライフバランスについて考える会 2022 in Jichi」が開催されました
2022 年 6 月 18 日 (土)

平成 24 年度から開催している本会も、今回で 12 回目の開催となりました。例年、医学部学生寮で開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続き、Web 会議システム Zoom を用いて開催しました。今回は「地域医療とワークライフバランス～それぞれのターニングポイント～」をテーマに本学卒業生の川又あゆみ先生 (島根県 34 期)、菅谷涼先生 (栃木県 37 期) よりご講演いただきました。

オンラインでの開催となりましたが、教職員、医学部学生などが多数参加し、卒業生の講演を熱心に聴講しました。会の後半では意見交換を行い、学生と卒業生、また参加教員とで盛んな議論がなされ、交流を深めることができました。会の開始前には、卒後指導委員会女性医師支援担当教員が学生寮に出向き、参加学生へお弁当を配付しました。また、本会は医学部同窓会に協賛をいただいております、参加した学生全員にお菓子の差し入れをいただきました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

**自治医大で
ベビーシッター割引券が
使えるようになりました**

- 内閣府の企業主導型ベビーシッター利用者支援事業を活用する補助制度です。
- 私学共済に加入する教職員であれば、非常勤、パート臨時職員の方も利用できます。
- 乳幼児から小学校 3 年生までの児童が対象です。
- 家庭内での保育や世話、保育施設などへの送迎にベビーシッターサービスを利用する際、1 人 1 回 4,400 円まで割引が受けられます。

例えば、
土日祝日、あるいは自宅が遠い等で 保育ルームあいりず (栃木) や院内保育所あおぞら (さいたま) が利用できない場合などにご利用いただけます。

使用にはいくつかのルールがあります。

- ・ 配属者の就労、病欠療養などによりサービスを利用しなければ勤務が困難な方が対象
- ・ 初回申込は利用予定日の 7 日前までに要申請など

詳しくは、医師・研究者キャリア支援センター Web サイトをご覧ください。

医師・研究者キャリア支援センター TEL: 0285-38-7511 FAX: 244-69 E-mail: career_support@jichi.ac.jp

アンケート調査の実施

2022年度はセンター開設10周年の節目として、これまでの学内の育児支援の改善や教職員が今後希望する支援の実態について明らかにするために、職員のキャリア支援に関するニーズ調査を実施した。

本調査により、キャリア支援センターの認知度（活動内容や活用状況）、病児・病後児保育の必要性など、具体的な必要項目が見えてきた。最も支援を必要としているはずの世代に情報が届いていないことが今後の大きな課題の一つである。現在、もしくは今後、育児支援が不足している（不足する）職員が約4割にのぼることが明らかになり、就業継続を希望する多くの職員のために、不足する育児・キャリア支援をより多くの皆さまと共有していくことがもう一つの重要な課題と考える。

目的：職員のキャリア形成における支援ニーズの把握

調査方法：Google フォームでの Web 調査および質問紙調査の併用

周知方法：メールおよびポスターの掲示

回収方法：Google フォームへの回答および回収箱（学内3ヵ所）

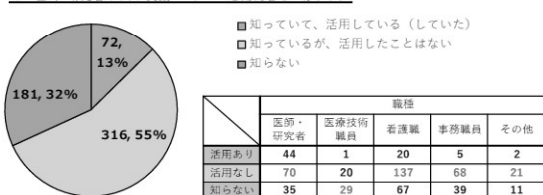
調査対象者：自治医科大学職員（栃木のみ）

医師・研究者、医療技術職員、看護職、事務職員

センターの活動内容の認知度

センターの活用度（全体、職種別）

Q1. 医師・研究者キャリア支援センターの活動内容をご存じですか



支援制度の認知度（年代別）

Q2. 大学に隣接している「わかさ保育園」は、空きがあれば、下野市在住以外の自治医大職員も利用できる場合があることを知っていますか
Q3. 職員の育児支援を行うための「あいりす」という保育施設があり、自治医大職員が一時託児、病児・病後児保育、夜間保育を利用できることを知っていますか

		全体	年代				
			20代	30代	40代	50代	60代～
わかさ保育園	知っていた	282	30	70	92	73	17
	知らない	287	92	75	58	57	5
保育施設あいりす	利用あり	78	2	25	40	10	1
	利用なし	351	59	82	99	92	19
	知らない	140	61	38	11	28	2

センターの活用度（性別、年代別）

Q1. 医師・研究者キャリア支援センターの活動内容をご存じですか

	性別			年代				
	男性	女性	その他	20代	30代	40代	50代	60代～
活用あり	14	58	0	4	19	35	12	2
活用なし	84	231	1	56	69	89	83	19
知らない	42	138	1	62	57	26	35	1

20代の職員の50%、30代の職員の39%がキャリア支援センターの活動を知らない

20代の職員の3%、30代の職員の13%しかキャリア支援センターを活用できていない

センターの活動内容の認知度のサマリー

- 回答者の約6割はセンターの活動を認知していたが、センターを活用しているのは約1割の職員にとどまった
- 医療技術職員や看護職や事務職員に比べて、医師・研究者の職員はセンターの活動を認知している者の割合が多かった
- 年代ごとの割合で、センターの活動や「わかさ保育所」や保育施設「あいりす」を活用している職員がより多いのは40代であった。また、活用したり認知している職員がより少ないのは20～30代であった
- 職種ごとの割合で、認知している職員がより多いのは、「わかさ保育所」では看護職、保育施設「あいりす」では事務職員であった。また、認知している職員がより少ない職種は医療技術職員であった

職員（栃木）の支援ニーズ

必要なキャリア支援（複数回答可）

Q4.大学全体の人材確保とキャリア推進のためにどのような育児支援が必要と考えますか
Q5.現在または今後「あなた」が学内もしくは学外に保育施設を必要としていますか
Q6.現在または今後、あなたはどのような育児支援内容を必要としていますか

- 「大学全体」の人材確保とキャリア支援のために
第1位 病児・病後児保育 第2位 一時保育 第3位 夜間保育
- （上記の要保育施設者のみの回答）
第1位 病児・病後児保育 第2位 一時保育 第3位 夜間保育
- 現在または今後の「あなた」のキャリアを支援するために
第1位 病児・病後児保育 第2位 通常保育 第3位 一時保育
同3位 学童保育

職員の支援ニーズのサマリー 1

- 「大学全体」あるいは「あなた」に必要なキャリア支援として多かった回答は「病児・病後児保育」であった
- 支援が必要と回答した職員の6割は、下野市内か市外かに関わらず、育児に必要な環境（資源）をすでに整えていると考えられた。しかし、残りの4割は、現在や将来のキャリアの形成のためにはさらなる育児支援を必要としていることが考えられた
- 市内に居住する職員は児が2歳になる前に「わかくさ」保育所や市内の保育施設の利用（入所）によって対処を図ることがうかがえた
- 児の年齢や居住地に関わらず、保育施設は学内・学外いずれも必要という回答が多かった。

育児支援ニーズの内容（保育施設を必要と回答した214名のみ分析対象）

Q7.あなたの居住地を教えてください
Q8.現在または今後、下野市内もしくは市外の保育施設を利用されていますか
Q9.今後、下野市内もしくは市外の保育施設の利用を検討されていますか

	下野市内(n=128)		下野市外(n=155)	
	今後、下野市内もしくは市外の保育施設の利用を検討している	検討していない	今後、下野市内もしくは市外の保育施設の利用を検討している	検討していない
現在または今後、下野市内もしくは市外の保育施設を利用中／利用予定	39 (将来不足群)	18 (支援自己調達群)	34 (将来不足群)	28 (支援自己調達群)
利用していない	14 (現在不足群)	57 (支援自己調達群)	20 (現在不足群)	73 (支援自己調達群)
	約4割		約4割	

職員の支援ニーズのサマリー 2

- 児の年齢や居住地に関わらず、必要性の高い育児支援として回答が多かったのは「病児・病後児保育」であった
- 3-5歳や学童の児がいる職員は、必要な育児支援に「学童保育」をあげている。居住地近くの施設を利用する傾向があるが、居住地に関わらず、あらたに「学童保育」の施設利用を検討している（確保できていない）職員が少なくない。

自由記述

記述統計

- 全回答件数：54件
- 平均語数：139語（15語～512語）
- 職種別件数：
 - 医師・研究者…19件 医療技術職員…6件 看護職…17件
 - 事務職員…8件 その他…4件（うち2件に「ラボランチ」の表記）
- 年代別件数：
 - 20代…2件 30代…19件 40代…18件 50代…13件 60代…2件
- 性別件数：
 - 男性…15件 女性…39件

代表的な意見③

- 通常保育の定員増や学童保育開始（学外の保育施設や小学校と職場との送迎なども）を求める声
 - 下野市内の保育園は激戦区で他市町村に住民票がある場合、入園が困難と市の窓口で言われた
 - この規模の病院で院内保育（通常保育）がないというのは残念だと思う
 - （児が）小学校に入学する頃には、私自身確実にフルタイムで働くことになる。（中略）仕事を辞める選択は考えたくないが、子どもの登下校の時間を考えると何かしら考える必要がある
 - 学童は、子供が通う小学校は6時迄（しか預けられず）で、お迎えに大変苦勞致しました。一度帰って家事終了後戻って記録することもありました
 - 保育園など施設も必要ですが、送迎など切れ目なくサポートがあると、より安心だと思います

意見の集約

- わかくさ保育所やあいりすへの感謝の言葉
- アンケートの実施やセンターの活動に対する肯定的な言葉
- 職場風土の改善（上役への教育、ハラスメントや時間外勤務があたりまえの勤務体制の改善）を求める声
- 育児支援の手続きの簡素化やさらなる周知を求める声
- 育児支援の利用料金の引き下げを求める声
- 病児・病後児保育や一時保育の定員増を求める声
- 通常保育の定員増や学童保育開始（学外の保育施設や小学校と職場との送迎なども）を求める声
- 育児支援以外の要望

考察 1（視点のみ記述します）

回収率の向上に向けた今後の課題

- Web調査の有効性を確認（全体の98.7%はWeb回答。無効回答なし）
- 再周知や期間延長の有効性を確認（8/10や8/19にセンターより周知）
- 時期や期間の影響の検証が必要（2018年調査は1/11～1/31に実施）
- 調査項目削減効果の検証が必要（2018年は24項目⇒今回は10項目）

センターの認知度向上に向けた今後の課題

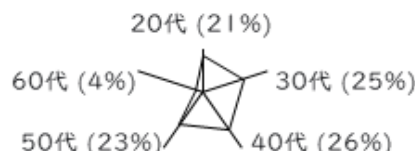
- 支援対象範囲の検討が必要（医師や研究者のみとするかどうか）
- 周知方法の検証が必要（現状では職員の若年層の4割には届かない）
- 調査の機会にセンターの活動内容を把握している可能性（根拠に乏しい）
- 活用／利用した経験者からの口コミが有効である可能性（根拠に乏しい）

職員のキャリア支援に関するニーズ調査

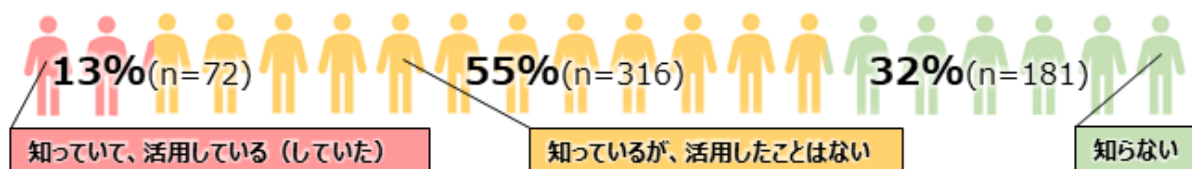
結果発表

医師・研究者キャリア支援センターでは、
自治医大職員の皆様の育児・キャリア支援のニーズ調査を実施いたしました
お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました

回答者の背景 回答数:569件 回収率:18.0% 女性:73.8%



Q. 医師・研究者キャリア支援センターの活動内容をご存じですか (n=569)



	医師・研究者	医療技術職員	看護職	事務職員	その他
活用あり	44	1	20	5	2
活用なし	70	20	137	68	21
知らない	35	29	67	39	11

	20代	30代	40代	50代	60代～
活用あり	4	19	35	12	2
活用なし	56	69	89	83	19
知らない	62	57	26	35	1

回答者の約6割はセンターの活動を認知していたが、センターを活用しているのは約1割の職員にとどまった
センターの活動(育児・キャリア支援)について、職種や年齢層の特性に応じて周知方法を検討する必要性が考察された

Q. 大学全体の人材確保とキャリア推進のためにどのような育児支援が必要と考えますか (複数回答可)

Q. 現在または今後「あなたは」学内もしくは学外にどのような保育施設を必要としていますか (複数回答可)

上記いずれの順位も

第1位 病児・病後児保育 第2位 一時保育 第3位 夜間保育

保育施設を必要とする職員の利用状況と意向について (n=214)
(左側は下野市内在住の方 | 右側は下野市外在住の方の回答)

	今後、あらたな 保育施設利用を検討	検討していない
現在または今後、 保育施設を 利用中/利用予定	39 34 (将来不足群)	18 28 (支援自己調達群)
利用していない	14 20 (現在不足群)	57 73 (支援自己調達群)

約4割

自由記述

- 病児や一時保育など急に必要時に簡単な手続きでその日から預けられるようにしてほしい (30代男性医師)
- 学童は、子供が通う小学校は6時前で、お迎えに大変苦労しました (40代女性看護職) 送迎があると安心 (40代女性事務職員)
- 兄弟3人を預けようとする、働いてもマイナスになる。料金の引き下げや兄弟割引等ができるかと預けやすくなる (40代女性看護職)
- ラボランチン等の臨時雇用の場合、キャリア支援センターやあいりす等の利用は数倍が高い (40代女性 その他)
- 男性医師の育児参加を医局が間接的に認めていないことが問題 (30代男性医師)

必要な育児・キャリア支援として回答が多かったのは、児の年齢や居住地に関わらず「病児・病後児保育」であった
現在もしくは今後、育児支援が不足している(不足する)と回答した職員の4割にのぼった
居住地に関わらず、3-5歳児や学童の児がいる職員は、必要な育児支援として「学童保育」やその送迎をあげていた
男性への育児支援の不足の声も寄せられており、男性職員のキャリア支援意識の掘り起こしの必要性も考察された



自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター
Center for Physician and Researcher Career Support



調査結果の
詳細はこちら



印刷物

開設 10 周年記念誌	2023 年 3 月発行
あいりすだより	Vol. 33 (2022 年 5 月発行) Vol. 34 (2023 年 3 月発行)
あいりすリーフレット	2022 年度版

発表・講演・報道

2022.6.10	小宮根 真 弓 高 橋 将 文	女性医師から始まった支援が男性医師・研究者も対象に。「医師・研究者キャリア支援センター」設立から 10 年-小宮根真弓・自治医科大学医師・研究者キャリア支援センター長らに聞く、Vol.1、M3.com 地域情報
2022.6.17	小宮根 真 弓 高 橋 将 文	次世代医師研究者交流会などで若手研究者を応援-小宮根真弓・自治医科大学医師・研究者キャリア支援センター長らに聞く、Vol.2、M3.com 地域情報
2022.9.15	加 藤 梨 香	「子育てと仕事・研究の両立とメンタルケア」宇都宮大学 男女共同参画週間 「子育て教員・職員応援! 宇都宮大学子育てサークル 宇〜わん 活動報告&情報交換会、Web 開催

統計データ

短時間勤務者(医師)

	20 時間時短勤務利用者数	育児短時間勤務者数
2022 年度	40	34

相談件数

	研修	復職	時短	保育所	育休	ハラスメント	夫婦別姓	その他	合計
2022 年度	0	0	0	1	0	0	0	1	2

保育ルームあいらす

	利用件数	利用会員数	サポート会員数
2022 年度	455	174	14

	一時託児	病児保育	夜間保育	合計
2022 年度	150	281	24	455

Jichi Joy Café

	参加者女性	参加者 男性	参加者合計
第 15 回 (2022.7.22)	11	3	14
第 16 回 (2023.2.27)	17	10	27

開設 10 周年記念シンポジウム

参加者女性	参加者 男性	参加者 合計
26	15	41

アクセスマップ



- JR 宇都宮線「自治医大駅」下車、徒歩 10 分または接続バスで 5 分。
- 東北新幹線を利用の場合は、「東京方面からは小山駅」、「東北方面からは宇都宮駅」で下車し、宇都宮線の普通電車で乗り換え。

医師・研究者キャリア支援センター 2022 年度 活動報告書

2023 年 9 月発行

発行元

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

T E L : 0285-58-7561

F A X : 0285-44-8627

E-Mail : career-support@jichi.ac.jp

H P : <https://www.jichi.ac.jp/c-support/>



